神奈川県考古学会
考古かながわ 第48号

小出義治先生との思いで

滝 澤 亮

私と小出先生の出会いは昭和51年の大学4年の時、秦野の桜土手古墳群の調査にはじまる。その年の夏第15号墳の石室を掘り上げその図面を先生と共に書き上げ、その後横須賀の養護学校の敷地から不時発見された縄文人骨の近くの調査を行い、秋になり神奈川歯科大学の先生の研究室に出入りさせていただき細かく卒業論文の御指導、助言もしていただいた。

卒業後は、続けて研究室で当時手がけられていた科研費の『歴史時代土器の研究』のお手伝いをし、土器の実測などを通じ基本的な土器の見方や組成の在り方などを学んだ。休みのシーズンには横須賀市のなたぎり遺跡などの調査のお手伝いをして過ごしました。

昭和54年からは、調布市教育委員会で埋蔵文化財担当の学芸員として過ごす傍ら、それまで掘りためた横須賀の報告書などを刊行した。

昭和57年には、一身上のわがままから調布市を退職し、神奈川県立高校の非常勤講師の職を世話して頂いた。

その後は、伊勢原市の比々多第1地区の区画整理に伴う発掘調査に小出先生を始め故玉口時雄、故久保哲三、関根孝夫の諸先生らに昭和61年の報告書の刊行まで調査団長・副団長・顧問としてお世話になりました。

また昭和55年からは、科研費の『古墳時代土器の研究』に参画させていただき、昭和59年の刊行までお手伝いさせていただき、その後小出先生、故桜井清彦先生や岩崎卓也先生らと共に、古墳時代土器研究会を発展させ『土器が語る―関東古墳時代の黎明―』を第一法規出版から平成9年に刊行した。それまでの間に小出先生らしい細かく野帳にメモをとられる姿など土器を観察する際の視点など多くを学んだ。

またごく最近では、平成22年10月に御無事で米寿を迎えられ『米寿を祝う会』を下津谷達男、寺田兼方両先生を発起人代表として100名近くを集め開催し大層喜ばれていた姿が記憶に残る。

最後に県考古学会とのかかわりでは、平成22年春に私共が調査している川崎市の野川神明社南遺跡第2次調査のおり、神奈川県考古学会の遺跡見学会が行われ、お出で頂いたのが県内の研究者にお目にかかった最後であったと記憶している。その日はたいそうご機嫌で、日大の澤田先生などとお酒を召し上がり夜にお送りしていったことを記憶している。

今鑑みれば、約36年にもわたる長いお付き合いでもありましたが、日頃の御指導に感謝しながらここに御冥福をお祈りし、筆を置かせていただきます。

2012 年度総会報告

去る 5 月 12 日(土)、2012 年度の総会を神奈川県埋蔵文化財センターにて開催いたしました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の 4 つの議事が総会に諮られました。

議事1　2011 年度事業報告

【総務】2011 年度総会を 2011 年5月 14 日(土)、神奈川県埋蔵文化財センター研修室にて開催。総会後、「かながわ考古学トピックス」にて横山諒人・天野賢一・中村若枝氏による講演。年度中に役員会、幹事会を計6回開催。

【会誌】2010 年事業の繰越として『考古論叢神奈河』第19集を2011年4月に発行。4本の論文等を所収。

【連絡誌】『考古かながわ』第 46 号(10 月)、第 47 号(2 月)を刊行。

【考古学講座】2012 年 3 月 6 日、横浜市歴史博物館講堂にて「災害と考古学」と題して開催。参加者は 74 名。新潟県立歴史博物館より山本哲也氏を招いた。

【発表会】第35回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 2011 年 11 月 26 日に川崎市民ミュージアム映像ホールにて開催。参加者 155 名。

【遺跡見学会】見学会を 3 回開催。第1回は 2011 年7 月 17 日に『発掘された日本列島 2011』展(江戸東京博物館)ほか、品川歴史博物館・大森貝塚を見学、参加者29 名、第2 回は 2011 年 10 月 15 日に海老名市河原口坊中遺跡の現地説明会及び周辺史跡を散策、参加者20 名、第3回は2012 年1 月 14 日に『平成 23年度かながわの遺跡展　弥生時代のかながわ』を見学、参加者37 名。

【ホームページの運営】ホームページ「神奈川県考古学会　考古かながわ」の管理・運営。

【20 周年記念事業】2010 年度に開催された 20 周年記念講演および講座『神奈川の考古学・最近の動向』の記録集作成のため講演・講座のテープ起こし等を実施。

議事２　2011 年度収支決算報告

2011 年度収支決算が報告されました。また、2012 年4 月7 日に会計監査を実施。金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていると監事より会計監査報告が行われ、収支決算報告とともに拍手をもって承認されました。

議事３　2012 年度事業計画（案）

【総務】総会は 201 年5 月 12 日、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。総会後に、「かながわ考古学トピックス」を開催。2ヶ月に1回程度の間隔で役員会・幹事会を開催し、年6回程の開催を予定。

【会誌】2011 年度からの継続事業である『考古論叢神奈河』第 20 集の発行準備、および第 21 集について 2013 年 3 月に刊行予定で調整をすすめる。

【連絡誌】『考古かながわ』第 48 号(2012 年秋)、第 49 号(2013 年春)発行予定。

【考古学講座】2012 年 1～3 月頃に開催予定。20 周年記念事業として 2010 年度発表会の講演記録集を刊行予定(2010 年度からの継続事業)。

【発表会】第 36 回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 2012 年 11 月 17 日に横浜市歴史博物館にて開催予定。20 周年記念事業として 2010 年度発表会の記念講演集を刊行予定。

【遺跡見学会】県内の発掘調査現場・展示会など、年 3 回の開催を予定。

【ホームページの運営】神奈川県考古学会のホームページについて、運営の継続および内容の拡充を図る。

【20 周年記念事業】20 周年記念事業として 2010 年度発表会での記念講演と講座『神奈川の考古学・最近の動向』を記録集として刊行予定(2011 年度からの継続事業)。記念事業の完了後、準備積立金の余剰金を一般会計に戻します。

議事４　2012 年度収支予算案

議事3の事業計画案とともに 2012 年度収支予算案が審議され、拍手により承認されました。

２０１１年度　収支決算報告

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明					
会費	1,086,000	1,083,000	▲3,000	旧年度会費	3000	×	55	＝	165,000
				本年度会費	3000	×	302	＝	906,000
				次年度会費	3000	×	4	＝	12,000
機関誌売上げ	600,000	317,780	▲282,220	発表会要旨					75,480
				考古論叢					72,300
				講座要旨					170,000
雑収入	5,000	530	▲4,470	送料/預金利子/他					530
積立金取崩	250,000	0	▲250,000						0
繰越金	1,628,355	1,628,355	0						1,628,355
合計	3,569,355	3,029,665	▲539,690						

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明		
事務局費	190,000	157,742	▲32,258	連絡費	58,284	
				旅費	23,180	※役員会等、会議交通費
				会場借上費	25,150	
				事務費	21,578	
				行事開催費	300	
				会費振込手数料	29,250	
会誌費	1,030,000	473,714	▲556,286	連絡費	24,280	
				事務費	3,184	
				印刷費	446,250	
				謝礼	0	
連絡誌費	200,000	140,120	▲59,880	連絡費	75,020	
				事務費	0	
				行事開催費	0	
				印刷費	65,100	
				謝礼	0	
発表会費	550,000	283,650	▲266,350	連絡費	9,150	
				会議費	0	
				行事開催費	33,000	
				印刷費	241,500	
				謝礼	0	
講座費	580,000	277,340	302,660	連絡費	17,710	
				会議費	1,895	
				行事開催費	69,735	
				印刷費	1,680,000	
				謝礼	20,000	
見学会費	95,000	88,612	▲6,388	連絡費	69,660	
				会議費	10,097	
				行事開催費	8,855	
				謝礼	0	
ホームページ運営費	60,000	35,910	▲24,090	事務費	630	
				HP使用料	35,280	※サーバー年間(2011.4～2012.3)使用料金
記念事業準備金	460,000	0	▲460,000	積立金	0	
				連絡費	0	
				会場借上費	0	
				事務費	0	
				印刷費	0	
予備費	404,355	2,429	▲401,926	送料/利子税金/他	2,429	
合計	3,569,355	1,459,517	▲2,109,838			

※収入(¥ 3,029,665)－支出(¥ 1,459,517)＝次年度繰越金(¥ 1,570,148)

２０１２年度　収支予算

（収入の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説　明
会　費	1,074,000	1,086,000	12,000	会費　3,000　円×　358　名=　1,074,000　円 （会員数 363 名、うち 5 名は 2011 年度に納入済）
機関誌等売上	400,000	600,000	200,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑 収 入	5,000	5,000	0	預金利子・雑収入等
積立金取崩	650,000	250,000	400,000	20 周年記念事業費積立金より取り崩し
繰 越 金	1,570,148	1,628,355	▲58,207	
合　計	3,699,148	3,569,355	129,793	

（支出の部）

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説　明		
事務局費	190,000	190,000	0	連絡費	70,000	
				会場借上費	30,000	
				旅費	30,000	※役員会等、会議交通費
				事務費	20,000	
				行事開催費	10,000	
				会費振込手数料	30,000	
会 誌 費	1,030,000	1,030,000	0	連絡費	10,000	
				事務費	10,000	
				印刷費・発送費	1,000,000	※考古論叢 20 集と 21 集の 2 冊刊行
				謝礼	10,000	
連絡誌費	200,000	200,000	0	連絡費	20,000	
				事務費	30,000	
				印刷費	150,000	※年 2 回発刊予定
発表会費	460,000	550,000	▲90,000	連絡費	25,000	
				事務費	5,000	
				行事開催費	60,000	
				印刷費	350,000	
				謝礼	20,000	※外部講師依頼 20,000 円×1 人
講 座 費	530,000	580,000	▲50,000	連絡費	10,000	
				事務費	10,000	
				行事開催費	100,000	
				印刷費	350,000	
				謝礼	60,000	※外部講師依頼 20,000 円×3 人
見学会費	110,000	95,000	15,000	連絡費	70,000	※連絡ハガキ代等
				事務費	10,000	
				行事開催費	20,000	※博物館入館料
				謝礼	10,000	
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ運営費	60,000	60,000	0	事務費	10,000	
				サーバー使用料	40,000	
				謝礼	10,000	
記念行事準備金	500,000	460,000	40,000	連絡費	40,000	
				会場借上費	10,000	
				事務費	10,000	
				印刷費等	440,000	※2010 年発表会・講座の記録集、刊行物のデジタル化
予 備 費	619,148	404,355	214,793			
合　計	3,699,148	3,569,355	129,793			

（記念事業積立金）

収入の部		支出の部	
2006 年度	750,000	2006 年度	0
2007 年度	150,000	2007 年度	0
2008 年度	150,000	2008 年度	0
2009 年度	150,000	2009 年度	0
2010 年度	0	2010 年度	550,000
2011 年度	0	2011 年度	0
2012 年度	0	2012 年度	650,000
合計	1,200,000		1,200,000

2012 年度積立金残金総額
0 円

考古学講座「災害と考古学」を受講して
講座参加記

NPO法人鎌倉考古学研究所
松尾 宣方

去年3月11日に発生した東日本大震災に我々は驚愕し、この国はいつ大天災に襲われてもおかしくない事実を改めて思い知らされた。震災発生以降、各種のシンポジュウムや企画展などの災害に関わる啓発事業が全国的に実施され、神奈川県考古学会も時宜にかなう講座「災害と考古学」を、平成24年3月4日(日)横浜市歴史博物館講堂において開催したのである。

講座は 5 人の講師によって担われた。上本進二氏は、県内の旧石器時代から近代までの 7 期に亘る地震痕跡等を分析し、特に弥生時代後期から古墳時代前期と 9 世紀代の 2 時期に地震跡が集中していることから、当該期の巨大地震発生を推論された。大村浩司氏は、1923 年の関東大震災時に出現した旧相模川橋脚が有する「関東大震災の痕跡を残す記念物」としての意義を紹介し、発掘調査により得られた災害痕跡を情報公開する必要性と共に、関係者の不利益を排除する環境作りが急務であると問題提起する。西野吉論氏は藤沢市域内の地震痕跡を旧地形との関連を確認して詳しく分析する。天野賢一氏は、県内7遺跡の地震痕跡等を紹介し、得られた情報を防災関連学会や行政機構などと共有し、一般に公開する必要性を指摘する。新潟県立歴史博物館の山本哲也氏は、新潟県中越大震災の経験も踏まえて、災害を記録として後世に残すことは博物館の重要な役割であり、博物館は自然災害に対し如何に対処すべきか、また社会生活との正しい関わりはどうあるべきか等、示唆に富んだ問題提起をされた。

各氏は、「災害痕跡発掘調査情報の公開と継承及び防災施策への活用」を共通して強調されたが、同時に情報公開の結果、事業予定地が災害発生地であると明白になることを不利益と考える人々も現実には存在するとの指摘もされた。発掘調査実施に理解と協力を得るためにも、公開方法等について行政・民間で調整し、公正なシステムの確立を図ることが今後の大きな課題であると痛感させられる講座であった。

さて鎌倉には上本氏が指摘するように、文献史料上の地震記録が多い。近年の中世遺跡発掘調査では小断層、地割れ、噴砂など地震痕跡の発見例が増えつつあるが、文献史料との整合は現段階ではまだまだ困難である。その中で整合が可能とされる一例を紹介する。調査年は平成 3 年(1991)とやや古いが、江ノ電由比ガ浜駅近くの発掘調査で地震による液状化現象に伴う噴砂痕が検出された。噴砂は8世紀から9世紀代の砂層中で発生し12世紀代の砂層を引き裂きながら約1メートル上昇して、13 世紀代の当時の地表面まで達していた。即ちこの地震発生時期は 13 世紀代となる。噴砂痕の規模から推してかなりの大地震が推定され、これに該当する震災は正嘉元年(1257)8 月 23 日発生の地震と推定されている。『吾妻鏡』には「家屋・築地悉く破損する。所々で地は裂け、水が湧き出し、中下馬橋辺りでは火炎が噴出し色青し」と、地震に伴い各所で液状化が発生しメタンガスも噴出した状況が記される。噴砂痕は剥取保存の措置がとられ地震記録資料として鎌倉市が保管しており、今後の有効な活用が望まれる。

NPO法人鎌倉考古学研究所では鎌倉市教育委員会との共催事業として、「考古学からみた鎌倉の災害」と題するシンポジュウムを平成 25 年 2 月 24 日(日)に開催する。シンポは、考古、文献、古環境の3分野からの報告・討論を通じて考古学と災害との関わりを追究するものであり、多くの方々の参加をお願いしたい。

［参考資料］

上本進二他「鎌倉市長谷小路周辺遺跡の液状化跡」第四紀研究第32巻第1号　1993年

「郷土・川崎を掘る～川崎考古学研究所の活動の軌跡～の見学」に参加して

見学会参加記

土屋亜莉沙

武蔵小杉からバスに乗り、とどろき緑地に着いて歩くこと数分。会場の川崎市市民ミュージアムは母の実家のすぐ近くにあり、小さい頃に何度か訪れ、館内のそこかしこにある岡本太郎氏のオブジェを怖がった記憶があります。

懐かしさのある市民ミュージアムで、持田春吉氏が設立された川崎考古学研究所、前身の宮崎古代文化研究会、高津図書館友の会の活動のお話や、川崎市についての考古資料を新井先生に丁寧に解説していただきました。また、実際に持田氏と作業された方も参加されていて、当時のやり取りを話され、貴重な体験談も聞くことができました。

壁と床面に大きく貼られた、1947・48 年に川崎市上空を撮影した米軍撮影空中写真合成図、2011 年撮影の写真を比較することで、祖母や両親が暮らしていた川崎市の歩みを捉えることができ、大変興味深かったです。

川崎市、そして神奈川県の土地がどのように変化し、どのような文化を経て現代に至ったか、さまざまな考古資料を通じて知ることができました。

鷺沼遺跡から出土した縄文前期の獣面把手にはイノシシが象られ、当時の人々の生活・生命に対する意識、土器に装飾を施す創造的な営みに感動しました。

奈良時代の火葬骨蔵器も、動的な装飾でなく、静かな色合いとシンプルな曲線で作られてその存在感を発しており、宗教観や生死を重んじる精神性が表れているように思います。

夏休み中の会期であったので、とどろき緑地や館内のワークショップは地元の子どもでにぎわっていました。彼らにも、普段生活している地域、地面の下に遺跡や土器などが眠っているということにもっと興味を持ってもらえたら、考古学という視点から地域を知ることで、持田氏のように郷土愛が育つきっかけになれば、と感じました。テレビや映画の中のものだけでなく、とても身近で魅力的なものとして知ってもらえる機会が増えることを望みます。

第36回　神奈川県考古学会　遺跡調査・研究発表会

第36回神奈川県遺跡調査・研究発表会は、横浜市歴史博物館で開催いたします。
県内で調査された旧石器時代から近代までの10遺跡について、最新の調査と研究の成果が発表されます。皆様、ふるってご参加ください。

日　　時:平成24年11月17日（土）　10:00～16:45
会　　場:横浜市歴史博物館　講堂　（横浜市営地下鉄「センター北」駅　下車徒歩約10分）
備　　考:入場無料、発表要旨は実費にて頒布。※発表遺跡の他、2 本の紙面発表もあります。
主　　催:神奈川県考古学会　　**共　　催**:横浜市歴史博物館
後　　援:神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会・ 川崎市教育委員会・相模原市教育委員会・
公益財団法人 かながわ考古学財団
同時開催:図書交換会　於》 横浜市歴史博物館　研修室
内　　容:
9:40～ 受付
10:00　開会の挨拶
10:05～ 調査･研究発表
1.（10:05～10:35）相模原市 小倉原西遺跡〔旧石器時代ナイフ形石器製作址の調査〕
公益財団法人 かながわ考古学財団 渡辺 外氏
2.（10:35～11:05）寒川町 岡田西河内遺跡〔弥生時代の集落跡〕
有限会社 吾妻考古学研究所 小林克利 氏
11:05～11:15 休憩
3.（11:15～11:45）伊勢原市 高森･宮ノ越遺跡 第3地点〔弥生中期から古墳前期集落跡の調査〕
株式会社 盤古堂 小池 聡 氏
4.（11:45～12:15）横須賀市 八幡神社遺跡〔古墳時代の石棺墓と土坑墓群〕
横須賀市教育委員会 中三川 昇 氏
12:15～13:30 昼休み
5.（13:30～14:00）小田原市 永塚北畑遺跡 第XI地点〔美濃国刻印須恵器が関東地方で初めて出土〕
小田原市文化部文化財課 土屋了介 氏
6.（14:00～14:30）鎌倉市 大倉幕府周辺遺跡〔古代から中世初頭の荏柄地域の様相〕
有限会社 鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄 氏
7.（14:30～15:00）川崎市 下作延巳ノ谷遺跡 第8次調査
〔古墳時代後期から平安時代にかけての集落遺跡と中世建物跡〕
有限会社 吾妻考古学研究所 大坪宣雄 氏
15:00～15:10 休憩
8.（15:10～15:40）伊勢原市 上粕屋･石倉中遺跡〔大山道周辺部の発掘調査〕
公益財団法人 かながわ考古学財団 天野賢一 氏
9.（15:40～16:10）小田原市 小田原城三の丸幸田口跡 第VII地点
〔江戸中後期遺構群および江戸前期石垣付堀と戦国期障子堀の調査〕
株式会社 玉川文化財研究所 太田雅晃 氏
10.（16:10～16:40）横須賀市 小原台堡塁跡〔近代軍事施設の調査〕
公益財団法人 かながわ考古学財団 齊藤真一 氏
16:40 閉会挨拶
16:45 閉会

～展示・講演等のごあんない～

名称	開催期間	時間	場所	問合せTEL
第32回海老名市温故館企画展「いにしえびとの意匠」 ～紋様から読み取る縄文・弥生文化	10/1～12/26 ※11/13～15は除く	9時～17時15分	海老名市立郷土資料館 海老名市温故館2階	046(252)4926
「日本国の生い立ち　長柄桜山古墳群の生い立ち-国指定史跡10周年を迎えて-」	10/3～11/30		葉山まちづくり館(図書館2階)	046(876)0421
世界遺産登録推進三館連携特別展『武家の古都・鎌倉』 神奈川県立歴史博物館会場「再発見！鎌倉の中世」展	10/6～12/2	9時半～17時	神奈川県立歴史博物館	045(201)0926
「国史跡指定10周年長柄・桜山古墳群出土品展」	10/13～11/28	8時半～17時	葉山しおさい博物館	046(876)1155
特別展「戦国最大の城郭　小田原城」	10/13～12/2	9時～17時	小田原城天守閣4階 特別展示会場	0465(23)1371
特別展「秦野の原像Ⅶ～太岳院遺跡～」	10/20～12/2	9時～16時半	秦野市桜土手古墳展示館	0463(87)5542
まんだら堂やぐら群臨時公開	10月～12月上旬の 土日祝日	10時～16時	国指定史跡名越切通	046(873)1111
勝坂縄文まつり	11/3	10時～13時	史跡勝坂遺跡公園	042(769)8371
出土品観察会	11/7～11/9	13時～15時	神奈川県埋蔵文化財センター	045(252)8661
平成24年度桜土手古墳展示館事業ミュージアムさくら塾 「太岳院遺跡と西相模地域の縄文時代」	11/10	10時～12時	秦野市立桜土手古墳展示館	0463(87)5542
発掘調査・新指定文化財速報展	11/12～11/16	9時～17時	横須賀市役所1号館1階	046(822)8484
寒川町遺跡特別発表・講演会～岡田遺跡出土の釣手土器指定記念講演会・古墳時代の鏡特別公開発表会～	展示：11/24～12/8 発表会：11/24	展示：9時～16時 発表会：13時～16時頃	寒川町文化財学習センター	0467(74)1111
遺跡講演会	11/25	13時20分～16時50分	国際医療福祉大学	0465(33)1715
第13回藤沢市遺跡調査速報展	11/27～1/20 ※12/28～1/4は除く	10時～19時 （日曜は17時まで）	藤沢市民ギャラリー常設展示室	0466(25)1111
茅ヶ崎市遺跡調査展示会	11/29～12/5	10時～19時 （最終日は15時まで）	茅ヶ崎市民文化会館1階展示室	0467(85)9177
史跡指定10周年記念講演会「長柄桜山古墳群の歴史的意義」	12/1	13時半～17時	逗子市役所5階会議室	葉山町046(876)1111 (内7223) 逗子市046(872)8153
第23回茅ヶ崎市遺跡調査発表会	12/2	13時半～17時	茅ヶ崎市役所コミュニティホール	0467(85)9177
最新出土品展2012	12/5～12/16	9時～17時	小田原市立かもめ図書館	0465(33)1715
『武家の古都・鎌倉』世界遺産登録推進事業関連 ※「称名寺を掘る」(仮)展	12/8～1/14	9時～17時	横浜市歴史博物館	045(890)1155
「横浜の遺跡展-縄文時代中期の横浜」展	12/8～1/14	9時～17時	横浜市歴史博物館	045(890)1155
第17回三浦半島地区遺跡調査発表会	12/9	13時～16時半	ヴェルク横須賀第1会議室	(横須賀考古学会)
平成24年小田原市遺跡調査発表会	12/9	10時～16時半	小田原市立かもめ図書館	0465(33)1715
けんぱく(県博)発掘クロニクル	12/15～2/7	9時半～17時	神奈川県立歴史博物館	045(201)0926
平成24年度かながわの遺跡展「勝坂縄文展」	12/15～2/7	9時半～17時	神奈川県立歴史博物館	045(201)0926
第30回藤沢市遺跡調査発表会	12/22	12時50分～16時15分	藤沢市民会館第1展示集会ホール	0466(34)8306
平成24年度かながわの遺跡展「勝坂縄文展」	2/16～3/20	9時半～17時	相模原市立博物館	042(750)8030

※　紙幅の関係上、上記一覧には考古学資料主体の催しを優先的に掲載しています。今年度は、世界遺産登録推進と銘打ち、多くの施設で中世鎌倉をテーマに特別展や行事が企画されています。詳しくはホームページなどでご確認ください。

※※　事前予約の必要な催しもありますので、詳細はホームページまたは各機関の問合せ先にご確認ください。

●編集後記

初夏の候、神奈川県考古学会の元副会長で、顧問を務めてこられた小出義治先生がご逝去されました。先生は、県考古学会の創設に関わられ、黎明期から会の運営、そして県下の考古学研究の発展に貢献されてきました。

今号では、急遽、追悼の意をこめて巻頭言に小出先生と縁の深いおひとりである滝澤亮氏から一文を頂戴いたしました。先生のご冥福をお祈りいたします。

考古かながわ　第 48 号

発　行　　神奈川県考古学会
発行日　　2012 年 11 月 1 日
編　集　　野口浩史・高橋 和・桑原安須美（連絡誌担当）
印　刷　　（有）湘南グッド
発行者　　神奈川県考古学会　会長 岡本孝之

郵便振替　00240-9-71208
e-mail　　soumu@KoukoKanagawa.net
ＵＲＬ　　http://www.koukokanagawa.net